

施設紹介

東京未来大学 小谷博子

東京未来大学こども心理学部

— 子どもたちの未来を、地域とともに考える大学

東京未来大学は東京都足立区にある小さな大学です。キャンパスは、ドラマ『3年B組金八先生』のロケ地として使用された旧足立区立第二中学校の校舎をリノベーションしたもので、どこか懐かしく温かな雰囲気を残しています。本学は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、児童指導員、公認心理師など、子どもの育ちや家族を支える専門職を目指す学生が学ぶ大学です。こども心理学部では、心理学を基盤としながら、教育・保育・福祉・医療などの領域を横断し、子ども一人ひとりの発達や多様性を理解できる人材の育成に取り組んでいます。

学生の中には、自身が超低出生体重児として生まれ成長してきた学生や、障害のあるきょうだいとともに育ってきた「きょうだい児」など、さまざまな経験を持つ学生もいます。大学での学びや多くの人との出会いを通して、自らの経験を振り返り、それを誰かを支える力へとつなげようとする学生たちの姿があります。私たちは、教員から学生へ方向に知識を伝えるだけではなく、それぞれの経験や思いを大切にしながら、ともに学ぶことを大切にしています。

また、足立区をはじめ、医療機関、福祉施設、特別支援学校、放課後等デイサービスなどと連携し、大学の外にも学びの場を広げています。看護師の協力による喀痰吸引の演習では、多くの学生が医療的ケア児について学んできました。障害のある子どももいない子どもと一緒に楽しむ「インクルーシブひろば」や、医療・工学・福祉・教育をつなぐ「医療的ケア児ハッカソン」など、学生が企画・運営に携わる活動も行っています。

第4回日本小児リハビリテーション医学会学術集会では、本学から約100名の学生ボランティアが参加し、全国からお越しになった会員の皆様をお迎えしました。受付や会場運営などをお手伝いしながら、医療・福祉の専門職、当事者やご家族と出会い、小児リハビリテーションについて直接学ばせていただきました。この経験をきっかけに、医療的ケア児や障害のある子どもたちへの関心をさらに深め、その後の地域活動へとつなげている学生もいます。

大学で学んだことを地域へ、地域で経験したことを大学へ。そして、学会でいただいた学びを次の世代へ。本学では、このような学びの循環を大切にしています。小児リハビリテーション医学会の先生方には、これまで多くの学生を温かく迎えて、育てていただきました。これからも医療・福祉・教育・心理・工学など、それぞれの専門性をつなぎながら、医療的ケア児や障害のある子どもたち、そのご家族とともに、学生たちが成長できる大学でありたいと願っています。



リレーエッセイ「聴覚過敏とお年寄りとの会話」

東京都健康長寿医療センター 近藤和泉

LondonのBobathコースに参加して、パニックを起こしやすいお子さんへのアプローチの仕方を教えて頂いた。そういったお子さんでは、パニックの原因となる聴覚過敏だけでなく、皮膚の過敏もあることが多いので、抱きかかえるときも、なるべく加わる圧が集中しないように体への接触面を広くして、声かけも耳元で、低い声で（トーンで）話すようにと実例を示しながら伝えていただいた。

研修から戻って来て、難聴のお年寄りに大きな声で話しかけたところ、相手の表情が曇っただけでなく、私が話したことが全く伝わっていないことに気づいた。それは声の大きさだけでなく、強いトーンが邪魔している印象だったので、試しに耳元でトーンをなるべく下げるように話してみると、相手の表情が明るくなり、お話しした内容のほぼ全てを理解してくださった。

その後、こういったコミュニケーションの取り方にエビデンスが無いかと、論文・レポートを探しているが、現在までそういったものには巡り会っていない。おそらく聴覚過敏のお子さんは、その発達過程で獲得される過大な聴覚情報をブロックする抑制系システムが未発達であり、お年寄りは逆に、加齢で強いトーンの音の抑制が効かなくなっているためだと考えている。さて、お年寄りとの会話していく上で、もう一つ避けることができないのは、同じ話が繰り返されることである。繰り返される理由に関しては、いくつかの報告があり、最近出たMcCollの報告では、そこに価値観を次の世代に伝えていく意義があるとしている。特に回想こぼ（reminiscence bump）と呼ばれる10代から20代の記憶が繰り返されることが多いとされている。いずれにせよそれは個人の尊厳と自信の回復につながるもので、忙しい外来でも繰り返される話を嫌がらずに聞かなければならないと心がけている。



第6回学術集会運営事務局よりお知らせ

会期：2026年11月6日（金）オンデマンド配信あり
会場：ウィンクあいち10F会議室（名古屋駅から徒歩5分）
ランチョンセミナーAorBはお弁当込（1000円）の事前登録制です。申込締め切り10月27日

〔演題登録〕

2026年2月6日（金）～8月31日（月） 4演題（8/4現在）

〔参加登録〕

2026年2月6日（金）～11月5日（木） 26名（8/4現在）

〔問い合わせ先〕

学術集会運営事務局 株式会社ITreat

E-Mail: jarmc.6th.meeting@gmail.com